

平成 26 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	はすの会
活動テーマ	家族や愛する人を失った方々を支える



・日本におけるグリーフケアの世界の第一人者である高木上智大学特任教授、柏木金城学院学院長に講演してもらい、悲嘆について理解を深めてもらった。講演会を通して悲嘆は病気なのではなくごく自然な人間の反応であること、又語ることの重要性を理解されたと思う。参加者は熱心に聴き、涙を流された方が多かった。質疑では生死に関し答を出すことの難しさなど深い内容であった。分かち合いは亡くなった方別に4, 5グループに別れ実施。悲嘆の中にある人に自分が話ができる、聴けるという場所があることを体験してもらった。

・石巻訪問については、集会（僧侶が主催する傾聴喫茶カフェ・デ・モンク）に、はすの会メンバー2名が参加した。災害に遭い、復興に向け、悲しみをこらえている方々のつらさを見て聴いて、感じとることができたが、集団生活の中での吐き出しの困難さも知ることができた。

「はすの会」の月例会に参加する人の多くは「周囲に分かってもらえない」「何げない言葉、態度に傷つけられた」と、生き辛さを抱えて日々暮らしている。そういう方々が月例会にて「わかってもらえた」「話してもいいんだ」と感じ少しずつ元気を取り戻していかれる。又、出席することが生きがいになっている方も多い。月例会の参加者の多くが講演会に出席し、また月例会に来られる。はすの会は落ち着いた安心感のある会として定着してきていると感じる。悲嘆とは何かを学問として学び、その上で遺族会を運営している会は少ない。我々は上智大学グリーフケア研究所で悲嘆を学問として学び、研究し、又、グリーフケアを実践する為に必要な実習を受けてきた。研究所を修了して運営しているのがこの「はすの会」である。「はすの会」は遺族会を提供するだけでなく、医療機関や福祉施設に従事している方達に対しても我々スタッフが研修や講演を行い、グリーフケアを周知してもらえるよう活動を拡げていきたいと考えている。